

読みたくなる! 広報誌 を作るう!



自分たちの活動を伝え
共感してもらえような
「読まれる」広報誌を作り
ボランティア・地域活動を
広げるための講座です。

- 1回目 1月19日(火) 13:30~15:30
広報とは・取材の仕方・「読まれる」原稿の書き方
- 2回目 2月2日(火) 13:30~15:30
「読みやすい」レイアウトを学ぼう
- 3回目 2月15日(月) 13:30~15:30
すぐ役立つコツ紹介! 実際に誌面を作ってみよう

講師

岡村 好子 さん

(広報誌アドバイザー/長野市ボランティアセンター運営委員/東口まちづくりニュース編集長)



講座には、30人以上の受講生が集まりました。ボランティア・市民活動のメンバー、地域活動に関わる人、福祉施設の職員など、多様な顔ぶれです。

初日は、まず「広報」についての講義からスタート。広報誌を手にとって「読みたい」と思うかどうか、人が判断するのはわずか1秒以下。だからこそ「読みやすい」フォントやレイアウトを選ぶことが、広報の第一歩であり、とても重要になるとお聞きしました。



後半のワークでは、「読みやすい文章の書き方」として、悪文(一文が長い、説明が専門的等)を、読みやすい文章に書き換えてみました。子どもの頃の国語の授業を思い出した方も多いのでは!?

続いて「取材&原稿の書き方」を学ぶため、2人ペアになり、「私の好きな〇〇」をテーマに相手に取材。それを実際に原稿にまとめてみます。話が盛り上がり、原稿書きは「宿題」になる人が多数。

2回目の講座は「レイアウト」について。みんなが持ち寄ったチラシを「読みたい」「読みたくない」に分けて並べてみます。

講師の岡村さんから、なぜ読みやすいのか、読みにくいのか、解説してもらいながら見ていくと、「なるほどー」と納得の表情。「違いのわかる」人になっていきます。



後半はワークで、実際にレイアウトに挑戦。まずは「罫線」が多すぎて読みにくくなっているチラシから、罫線を消してみます。「これ、消していいの？」と半信半疑だった参加者も、すっきりしたレイアウトを見て「読みやすい！」と感心。

自分で一から誌面のレイアウトも作ってみました。縦書き？ 横書き？ イラストは？…悩みながらも、自分が読みやすいと思うレイアウトが完成！



最終回は、「企画の立て方」です。どうやってテーマを掘り下げるのか、深く広いテーマにしていくにはどうしたらいいのか、お聞きします。思いつく言葉を書き連ねていく「キーワード連想法」、そして「お店のレイアウト」に見立てるアイデア出しを、実際にやってみます。そして集大成として、自分がつくる広報誌の企画を実際に立て、レイアウトに落とし込みました。

3回講座を終え、「担当になり、どこから手を付けていいのかわからない…」「作っても読まれない…」と悩んで参加された皆さんが、「できそう！」「やってみる！」と明るい顔で帰っていかれました。ボランティアや地域活動を広め、目指す社会をつくる一助として、今回の講座が活用されることを期待しています。

参加者からの声



 Hello

- 難しく考えすぎず、全てを伝えようとせず、わかりやすさに注目して基本に戻りながら作りたいです。
- ためらって書けずにいたのですが、楽しんで！！一歩進んでみようと思います！
- 発想の大切さを感じました。難しく考えず、自身が読みやすいものを作っていこうと思いました。
- 読みやすいものをつくるには、自分よがりにならないことを強く感じました。
- 広報誌というと、かっこいい文章を書かなくてはと思っていましたが、ただわかりやすい文章、ぱっと見てすぐわかるものがよい文章だとわかり、とても気持ちが楽になりました。